

## JR 西日本とソフトバンク、「自動運転・隊列走行 BRT」の実証実験を開始

西日本旅客鉄道株式会社（以下「JR 西日本」）とソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）は、自動運転と隊列走行技術を用いた BRT<sup>※</sup>（以下「自動運転・隊列走行 BRT」）の実証実験を、2021年10月から専用テストコース（滋賀県野洲市）で開始します。

両社は、まちづくりと連携した持続可能な地域交通としての次世代モビリティサービスの実現に向けて、「自動運転・隊列走行 BRT」の開発プロジェクトを2020年3月に立ち上げました。このプロジェクトでは、日本初となる連節バスの自動運転化および自動運転バス車両の隊列走行の実用化を目指して、専用テストコースの設置など実証実験に向けた準備を進めてきました。このたび、専用テストコースの走行路が完成することに伴い、3種類の自動運転車両（連節バス・大型バス・小型バス）を用いて、車種が異なる自動運転車両が合流して隊列走行などを行う実証実験を開始します。テストコースでの実証実験を通して、「自動運転・隊列走行 BRT」の技術確立とシステムの標準パッケージ化を目指し、2020年代半ばをめどに次世代モビリティサービスとして社会実装を進めていきます。

※Bus Rapid Transit：バス高速輸送システム

### 1. 「自動運転・隊列走行 BRT」サービスが目指す姿

- (1) 専用道による安全性・定時性・速達性の実現
- (2) 専用道の利点を生かした自動運転・隊列走行の早期実現
- (3) 需要に応じた柔軟な輸送力の確保
- (4) 他の交通手段と連携した一体的でフラットな（段差の少ない）交通網の実現
- (5) 運転手の担い手不足の解消
- (6) シンプルな設備によるローコストなモビリティサービスの実現



### 2. 専用テストコースでの実証実験の概要

- (1) 所在地  
滋賀県野洲市富波乙  
(JR 西日本網干総合車両所宮原支所野洲派出所内)



## (2) 主な実証実験項目

- ① 自動運転・隊列走行に関する車両の技術検証
- ② 自動運転・隊列走行に適した走行環境・地上設備の検討
- ③ 乗降場への正着制御や車両の遠隔コントロールなどの運用面の検討
- ④ 様々な環境下における上記項目の比較検証を通じた事業性の検討



## (3) スケジュール

- ① 2021年10月 自動運転に向けた車両の機能試験開始
- ② 2022年春頃 3種類の自動運転車両を用いた隊列走行の試験開始
- ③ 2022年夏頃 乗降場への正着制御や車両の遠隔コントロールなどの運用面の試験開始
- ④ 2023年 専用テストコースでの自動運転・隊列走行（先頭車：ドライバー同乗、後続車：無人運転）に関する技術確立（目標）

## 3. 社会実装に向けて

今後両社は、まちづくりと連携した持続可能な地域交通の実現に向けて、ご関心をお持ち頂いた皆様との対話を積極的に進め、次世代モビリティサービスの社会実装を目指していきます。

<参考>2020年3月23日プレスリリース

「JR西日本とソフトバンク、自動運転と隊列走行技術を用いたBRTの開発プロジェクトを開始」

[https://www.westjr.co.jp/press/article/items/200323\\_01\\_BRT\\_1.pdf](https://www.westjr.co.jp/press/article/items/200323_01_BRT_1.pdf)

今回ご案内の取り組みは、SDGs目標の8番、9番、11番、12番に貢献するものと考えています。

